

2027年卒の就職戦線は、正式内定解禁日である10月1日を迎えた。キャリタス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は2年連続で前年同期を下回り、高水準ながらも、5年ぶりに9割台に届かなかった。

また今回は、内定後のフォローについての意見や、中小企業への応募状況、地元就職、就職活動費用など多岐にわたる調査結果を紹介したい。
(2027年卒・定期調査 最終回)

1. 10月1日現在の内定状況 (※)

- 内定率は89.4%。前回調査(7月調査、85.5%)から3カ月間の伸びは3.9ポイント
- 前年実績(92.3%)を2.9ポイント下回り、5年ぶりに9割を切った
- 就職先決定者は全体の83.2%。内定保留者(2.6%)を合わせた活動終了者は85.8%

2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」63.7%。理系は過半数が「大学院に進学」

3. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は前年に引き続き、文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多
- 「インターンシップ等(※)参加企業」の割合は今年も5割超(51.7%)

4. 内定後のフォローと内定者研修

- 企業に望むフォローの頻度は「毎月」が最多(37.7%)。次いで「隔月」(29.0%)
- 内定期間中の研修や課題には6割超が賛成の意向(62.2%)。「eラーニング」が人気

5. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の面接試験を受けた学生は全体の51.9%。平均社数は2.4社。ともに前年より微増
- 中小企業を受けた理由は「やりたい仕事に就ける」42.6%、「会社の雰囲気がよい」39.6%

6. 地元就職の状況

- 就職先が決まった地元外進学者のうち、Uターン就職は約2割(21.7%)

7. 就職活動の費用

- 平均80,559円で、前年とほぼ同水準。但し、「交通費」はやや増加(28,540円)
- 交通費の支給がないことでインターンシップ等(※)を諦めた経験を持つ人は約3割(28.7%)

※「内定」には、内々定を含む

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

調査対象：2027年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数：1,039人(文系男子241人、文系女子463人、理系男子184人、理系女子151人)
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2026年10月2日～12日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2027
調査実施：株式会社キャリタス／キャリタスリサーチ

1. 10 月 1 日現在の内定状況

10 月 1 日現在の学生モニターの内定率は 89.4%。前年実績 (92.3%) を約 3 ポイント下回り、10 月の内定率としては 5 年ぶりに 9 割を割り込んだ。現在の形式で調査を取り始めた 2005 年卒以降で最も高かった 25 年卒者と比べると、3.7 ポイント減。

今期は早期化が一段と進み、解禁月の 3 月時点の内定率が 5 割を超えるなど (51.7%)、序盤の過熱ぶりが目立った。5 月調査で前年と同水準に並んだ後、6 月以降は前年同期実績をやや下回る状態が続き、正式内定日の 10 月のタイミングでも追いつくことはなかった。前回調査 (7 月 1 日時点) から 3 カ月間の伸びは 3.9 ポイント。早い時期に高水準を達成したこともあり、夏場はそれほど伸びなかったようだ。文理男女のいずれも前年を下回っており、属性によらず伸び悩んだ様子が見て取れる。

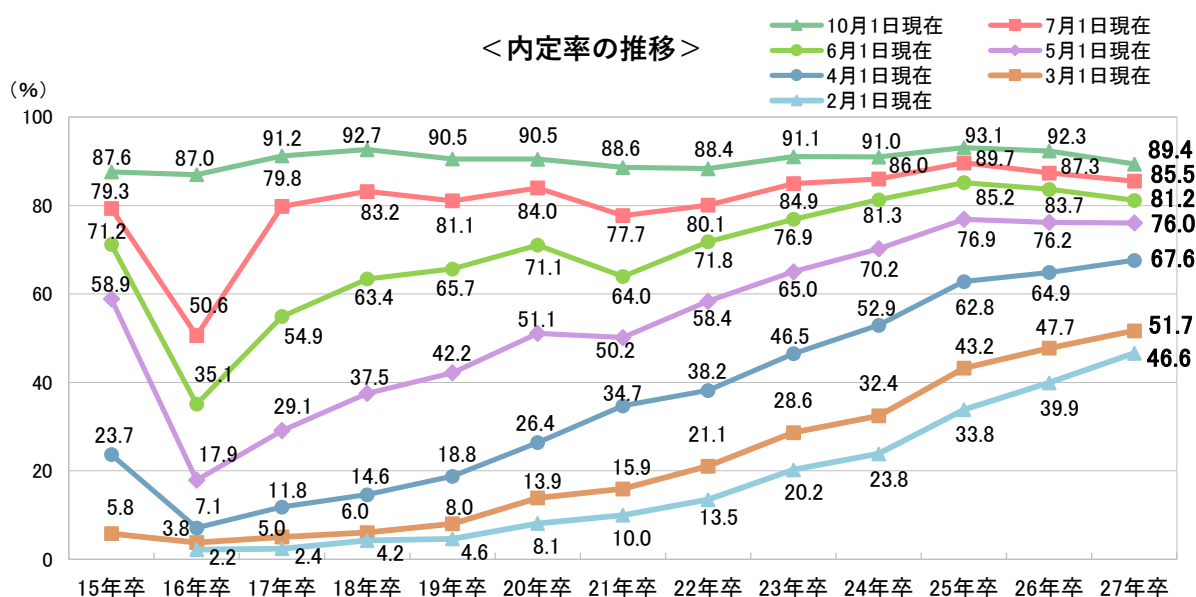
内定取得学生の平均内定数は 2.4 社。内定者の多くは、今年も複数の企業から内定を得たことがわかる。

<10 月 1 日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		89.4 (92.3)	86.7 (90.2)	91.6 (95.2)	90.2 (90.5)	90.1 (93.5)
内定なし		10.6 (7.7)	13.3 (9.8)	8.4 (4.8)	9.8 (9.5)	9.9 (6.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	93.1 (93.4)	91.4 (92.1)	93.4 (92.5)	92.8 (94.5)	97.8 (98.5)
	活動は終了したが複数内定保持	2.1 (1.0)	1.9 (0.5)	2.8 (1.9)	1.8 (0.9)	0.7 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.8 (0.8)	1.0 (0.0)	0.7 (0.7)	1.2 (2.3)	0.0 (0.8)
	就職活動継続	4.0 (4.8)	5.7 (7.4)	3.1 (4.8)	4.2 (2.3)	1.5 (0.8)

		(社)				
		全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均		2.4 (2.5)	2.6 (2.6)	2.5 (2.7)	2.3 (2.3)	2.2 (2.2)

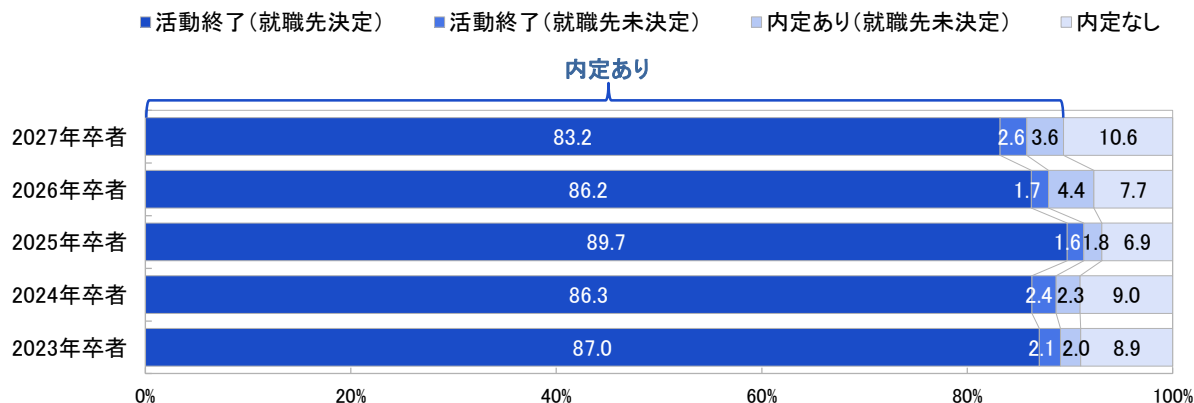
※ () 内は前年 (10 月 1 日現在) の数値



※2015年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17～27卒は6月

活動状況の分布を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した人の割合は 83.2%。過去 5 年間で最も少ない。内定率の低下に加え、内定取得学生が態度を決めかねるケースが増えたことなどで、前年同期 (86.2%) より減少した。

<活動状況の分布>

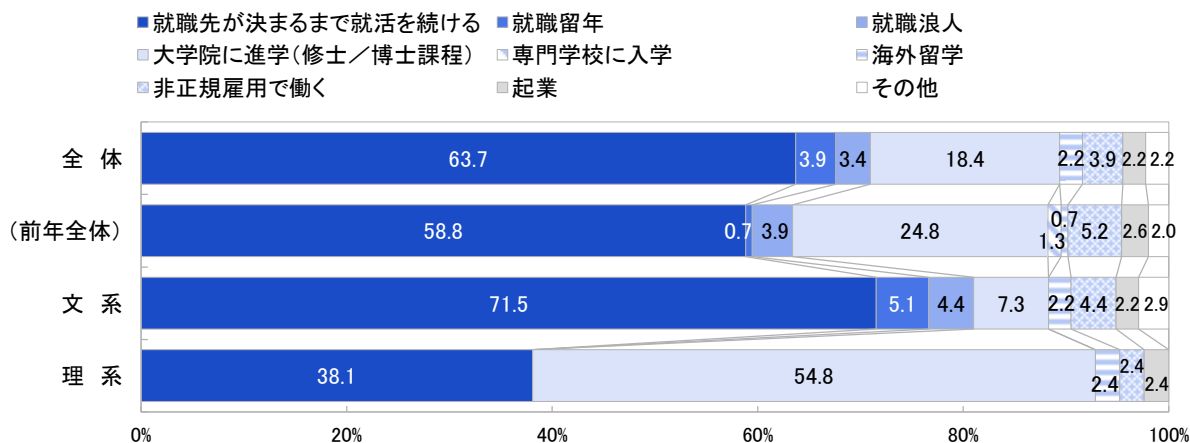


2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生 (モニター全体の14.2%) に、今後の予定を尋ねた。

「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が6割を超えるが (63.7%)、就職以外の進路を考えている者も少なくない。「大学院に進学」が全体の2割近くあり (18.4%)、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層も一定数みられる。とりわけ理系学生において顕著で、過半数が選択している (54.8%)。一方、文系学生は「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が圧倒的に多く、7割を占める (71.5%)。

<就職先が決まっていない学生の今後の予定>



■就職先が決まっていない学生の声

- 他の選択肢が選べるほど余裕がない。 <就活継続：文系男子>
- 第一志望の最終面接を控えている。 <就活継続：文系女子>
- 今の就職先で良いのか迷っているため、良い企業があれば再開しようとしている。 <就活継続：文系男子>
- 院試験に落ちて就活を再開し、継続中。 <就活継続：理系男子>
- 修士卒のほうが就職の選択肢が広がると感じたため。 <大学院進学：理系女子>
- インターンシップに行き自分の知識不足を痛感した。今の研究を続けて更なる成果を出したい。 <大学院進学：理系男子>

3. 就職決定企業の属性

就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 83.2%）の、就職決定企業について確認したい。

まず、就職決定企業の業界を文理別に見てみる。文系は、1 位「情報処理・ソフトウェア」、2 位「官公庁・団体」、3 位「銀行」で、上位 3 位は前年からの変動はない。「情報処理・ソフトウェア」は前年よりポイントが伸びて、集中度がやや高まった。理系も 1 位は「情報処理・ソフトウェア」で、文理にかかわらず採用に積極的な企業が多いことがわかる。2 位「電子・電機」、3 位「建設・住宅・不動産」と、理系も TOP3 に変化はなく、文理とも定番となっている業界が上位に並ぶ。

<文 系>

	2026年卒者	%		2027年卒者	%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.8	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.3
2位	官公庁・団体	10.2	2位	官公庁・団体	9.0
3位	銀行	9.8	3位	銀行	8.6
4位	建設・住宅・不動産	6.0	4位	運輸・倉庫	6.8
5位	運輸・倉庫	5.6	5位	建設・住宅・不動産	6.3
6位	調査・コンサルタント	3.6	6位	調査・コンサルタント	4.2
7位	保険	3.4	7位	保険	4.1
8位	情報・インターネットサービス	3.3	8位	その他サービス	4.0
9位	電子・電機	3.2	9位	信用金庫・労働金庫・信用組合	4.0
	コンビニエンス・GMSストア		10位	商社（専門）	3.7

<理 系>

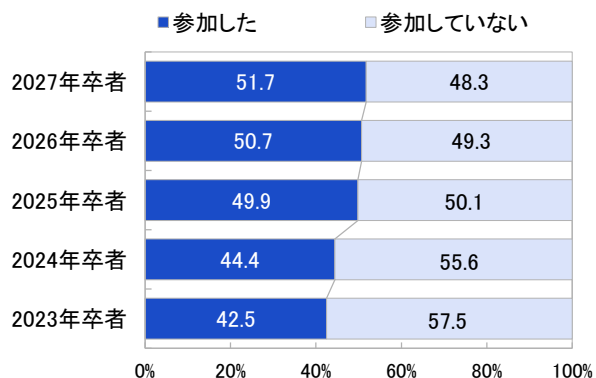
	2026年卒者	%		2027年卒者	%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.1	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.2
2位	電子・電機	11.0	2位	電子・電機	11.8
3位	建設・住宅・不動産	8.4	3位	建設・住宅・不動産	
4位	医薬品・医療関連・化粧品	7.8	4位	自動車・輸送用機器	7.7
5位	自動車・輸送用機器	6.9	5位	素材・化学	5.9
6位	官公庁・団体	6.0	6位	医薬品・医療関連・化粧品	4.5
7位	機械・プラントエンジニアリング	5.7	7位	官公庁・団体	4.2
8位	素材・化学	5.4	8位	水産・食品	
9位	調査・コンサルタント	4.5	9位	調査・コンサルタント	3.8
10位	精密機器・医療用機器	3.9	10位	情報・インターネットサービス	

※40業界のうち上位10業界を掲載

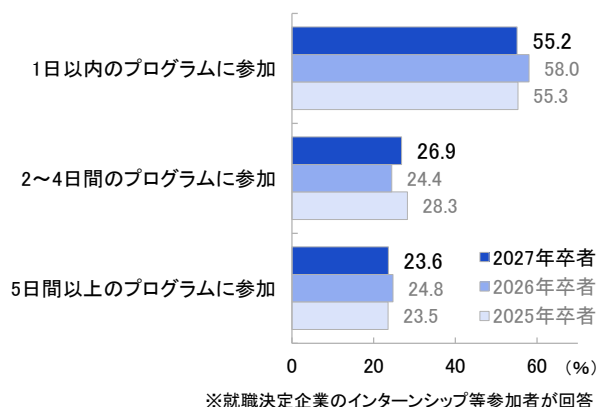
※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

次に、インターンシップ等のプログラム参加状況を見てみる。就職決定企業がインターンシップ等に参加した企業だったという人は年々増加傾向にあり、今年は 51.7%。参加日数については、「1 日以内」が 5 割強で (55.2%)、「2～4 日間」「5 日間以上」がそれぞれ 2 割台 (26.9%、23.6%)。1 日以内のプログラムの半数程度だが、複数日程のプログラムはもともと参加の枠が限られることを考えると、高いと言える。

<就職決定企業のインターンシップ等への参加>



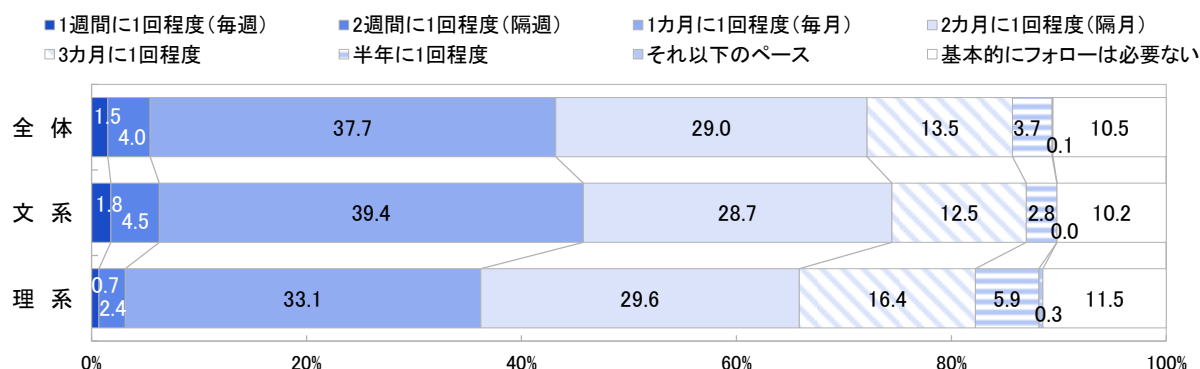
<日数別参加状況>



4. 内定後のフォローと内定者研修

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、入社までどのくらいのペースで企業にフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねた。最も多かったのは「1 カ月に 1 回程度 (毎月)」で 37.7%。次いで「2 カ月に 1 回程度 (隔月)」(29.0%) が続く。研究が忙しい理系学生は、文系と比較すると少ない頻度を望む傾向が見られるものの、文理ともに一定のフォローを期待している様子が見える。

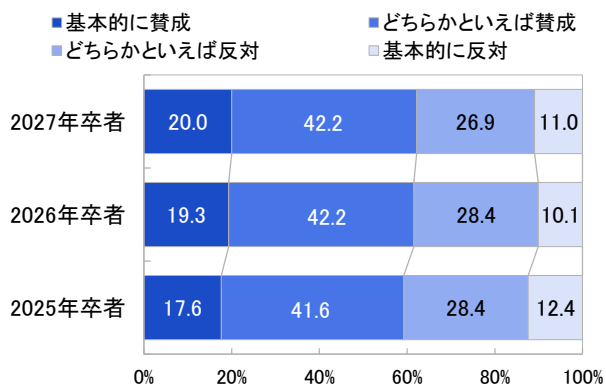
＜企業に希望する内定後フォローのペース＞



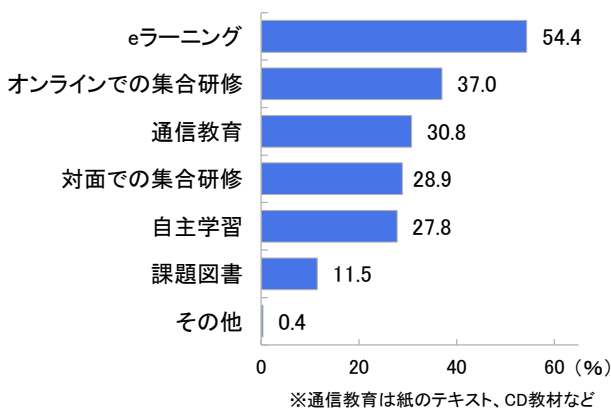
内定期間中に研修や課題が出ることへの賛否を尋ねると、「基本的に賛成」(20.0%)と「どちらかといえば賛成」(42.2%)を合わせて 6 割超が賛成と回答 (計 62.2%)。内定期間中の研修・課題に肯定的な学生は多く、3 カ年で見てもその傾向に大きな変化はない。

研修や課題の望ましい形式は「e ラーニング」(54.4%) が最も多い。次いで「オンラインでの集合研修」(37.0%)、「通信教育」(30.8%) が 3 割台で続き、自宅等で受けられる課題や研修を希望する学生が多いようだ。どのような形式であっても、入社前の研修は希望者のみに限り、学業に負担のない量・方法で行うことが求められる。

＜内定期間中に研修や課題が出ることへの考え＞



＜内定者研修や課題で望ましい形式＞



■内定期間中の研修や課題についての考え

- 必要な資格などを、サポートを受けて早期に取得できるのは良いと思う。 ＜文系男子＞
- 内定式から入社までの半年という期間に気が緩まないよう、また入社に向けて気持ちを高くもつためにも、ある程度課題があることは賛成する。 ＜文系女子＞
- 入社してから必要になる知識を学んでおき、入社に対する期待を膨らませたい。 ＜理系男子＞
- 卒業研究や大学祭など、ほかにやりたいことが多数あるので、あまり多くは課されたくない。 ＜文系女子＞
- 勉強しておくに越したことはないが、会社からのマストの課題があると、大学の研究に割ける時間が減ってしまう。 ＜理系女子＞

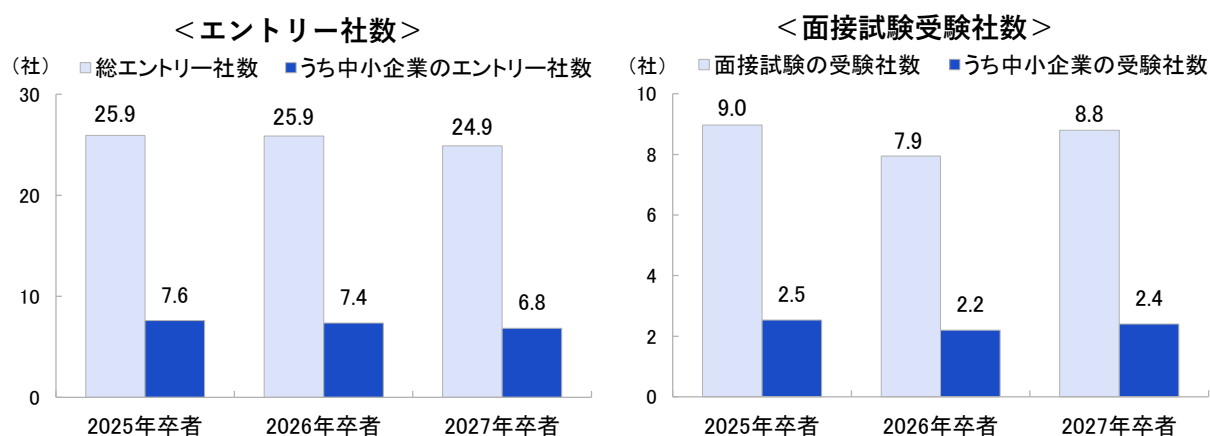
5. 中小企業への選考応募状況

全員を対象に中小企業（従業員 300 人未満）への応募経験について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」学生は 57.4% で、前年より 3.2 ポイント増えた。「中小企業の面接試験を受けた」割合も半数を超え（51.9%）、揃って増加に転じた。

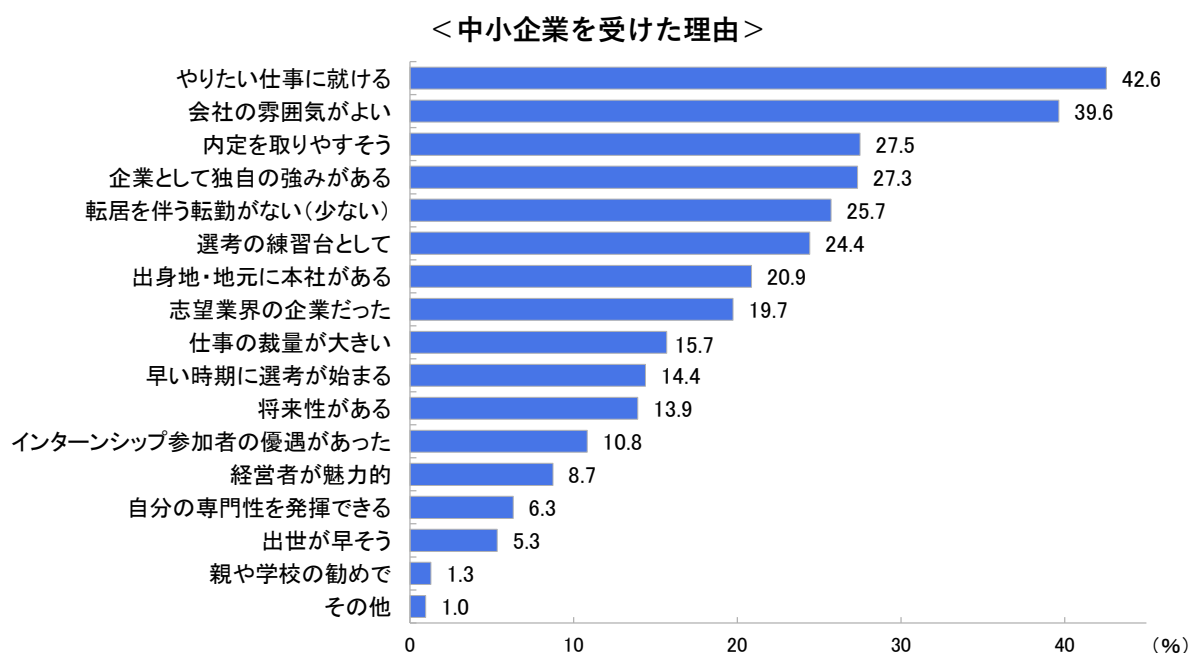
総エントリー社数の平均 24.9 社のうち、中小企業へのエントリー社数は 6.8 社。面接試験受験は平均 2.4 社で、僅かではあるものの前年を上回った。ただ、エントリー社数に占める中小企業の割合、面接社数に占める中小企業の割合は、ともに前年よりやや低下した（それぞれ 27.3%、27.2%）。

	2025年卒者	2026年卒者	2027年卒者
中小企業にエントリーした	55.1	54.2	57.4

	2025年卒者	2026年卒者	2027年卒者
中小企業の面接試験を受けた	49.9	49.7	51.9



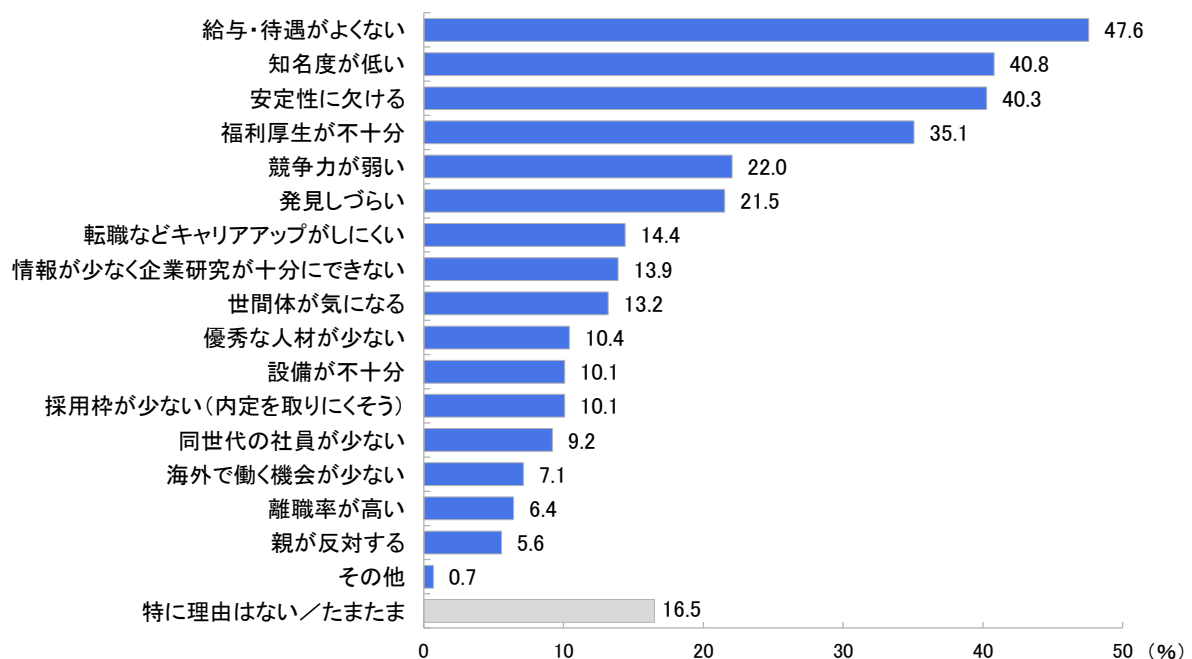
中小企業を受けた学生にその理由を尋ねた。最も多いのは「やりたい仕事に就ける」で、4 割超が選んだ（42.6%）。仕事内容が希望と合致すれば、企業規模を問わないという学生も少なくないようだ。次点で「会社の雰囲気がい」（39.6%）が僅差で続く。また、「転居を伴う転勤がない（少ない）」「出身地・地元には本社がある」などを 2 割以上が選んでおり、希望する勤務地で働きやすいという点を中小企業の魅力として捉えている様子もうかがえる。



中小企業を受けていない学生 (モニター全体の48.1%) にその理由を尋ねたところ、半数近くが「給与・待遇がよくない」を選んだ (47.6%)。「安定性に欠ける」(40.3%)、「福利厚生が不十分」(35.1%)なども比較的多く選ばれており、条件面における懸念が主な理由を占めているようだ。

また、「知名度が低い」(40.8%)、「発見しづらい」(21.5%)を一定数が選んでおり、企業を知るきっかけがなかった、あるいは探し方がわからないという学生も少なくない。関連して「情報が少なく企業研究が十分にできない」を13.9%が選んでおり、企業研究や選考対策のしづらさを理由に敬遠する声も見られた。同様の意見は選考を受けた学生からも散見される。

< 中小企業を受けていない理由 >



■ 中小企業を受けた印象

- 面接や人事担当者との面談で親身に自分のことを見てくれた。大きな会社の一人としてではなく、少数精鋭の一人として活躍してほしいことを本気で期待しているというアピールは伝わった。 <文系男子>
- 業務内容が大手企業に比べると細やかで、専門性を強く発揮できるように感じた。 <理系男子>
- 大手の企業よりも規模が小さいが故の風通しのよさを感じた。 <理系女子>
- 私が受けた中小企業は、知名度が低い分、内定後のフォローアップがとてもしっかりしており、そのプログラムの中で会社への理解が深まるようになっていた。 <文系女子>
- 選考プロセスが短めで負担が少ないケースが多かった。 <理系男子>
- ホームページ上の情報が少ない企業もあったので企業研究に苦戦した。 <文系女子>
- 選考方法などの情報が少なかった。 <理系女子>
- フィードバックはありがたかったが、面接官の主観で話される部分も多く、不満も感じた。 <文系女子>
- マイページがなく、メール等で毎回返信や連絡をしなければならなかったのが大変だった。 <文系男子>

■ 中小企業を受けていない理由

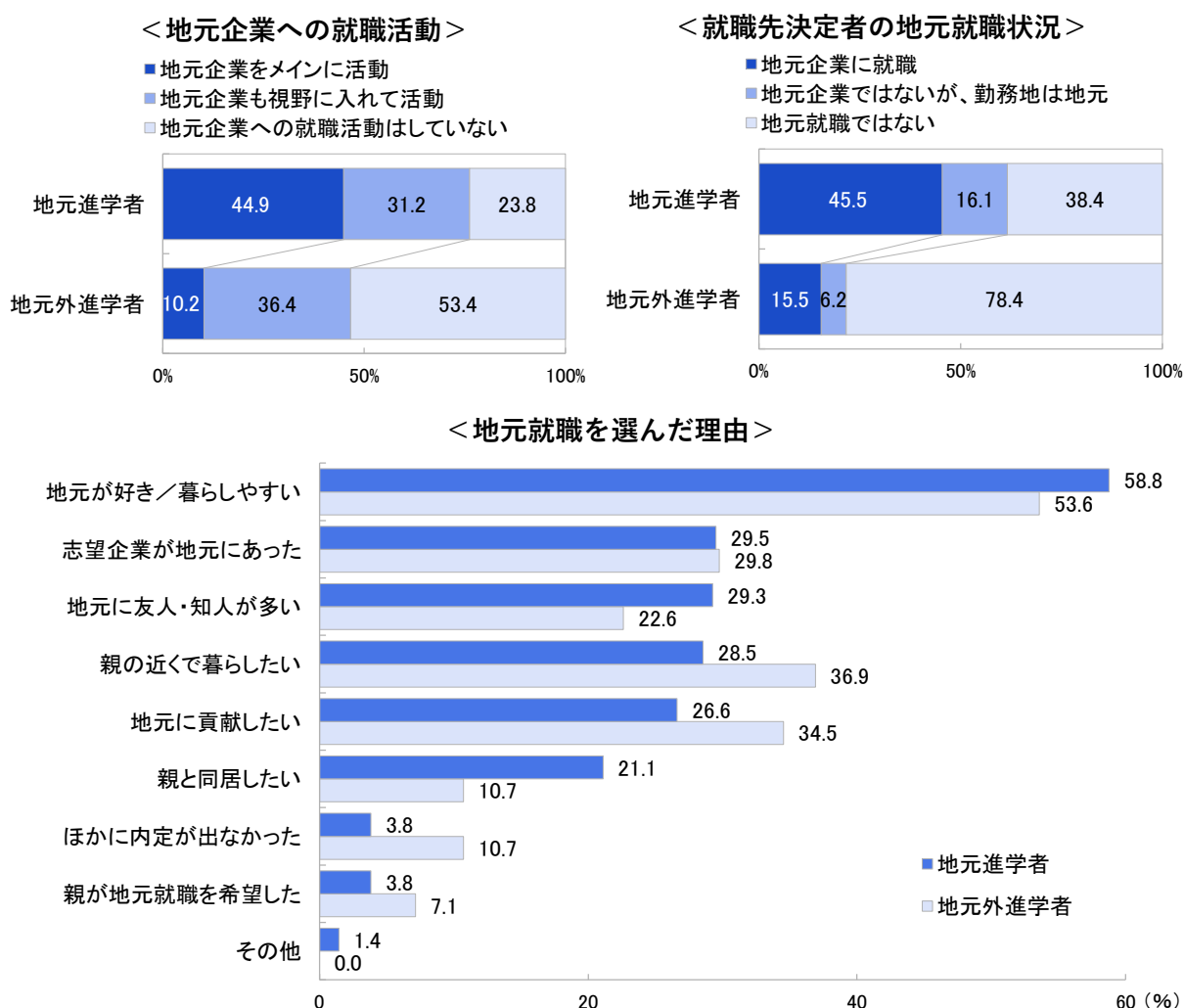
- 大手に比べ、給料や福利厚生が整ってないイメージがあり敬遠している。 <文系男子>
- 大企業の方が、多様な考えの方々がいて切磋琢磨していけるという印象があった。 <理系女子>
- 社会的影響の大きい業務に携わりにくいと考えたから。 <理系男子>
- 魅力的な企業を発見しづらい上、社内の実態に関する情報が限られ企業研究が難しく感じたため。 <文系女子>
- 大手から選考が始まり、そこで決まったから見る必要がなかった。 <理系男子>
- 採用枠が少ないため、自分が内定を取れる自信がなかったから。 <文系女子>

6. 地元就職の状況

出身地・地元での就職活動について尋ね、地元の大学に通う学生（＝地元進学者）と、地元を離れて進学している学生（＝地元外進学者）とに分けて集計した。

地元進学者の4割超が「地元企業をメインに活動」と回答したのに対し（44.9%）、地元外進学者では1割にとどまる（10.2%）。しかし「地元企業も視野に入れて活動」（36.4%）を合わせると、地元外進学者も半数近くがUターン就職を意識したと言える。地元外進学者のうち、Uターン就職を決めた者は約2割（地元企業15.5%、勤務地が地元6.2%の計21.7%）。

地元就職を選んだ理由としては、両者とも「地元が好き／暮らしやすい」が最も多い。実際に「地元企業の中でも、転勤のない企業を探していた」という声が寄せられている。地元外進学者は「親の近くで暮らしたい」、「地元に貢献したい」の数値が高いのが特徴的（36.9%、34.5%）。

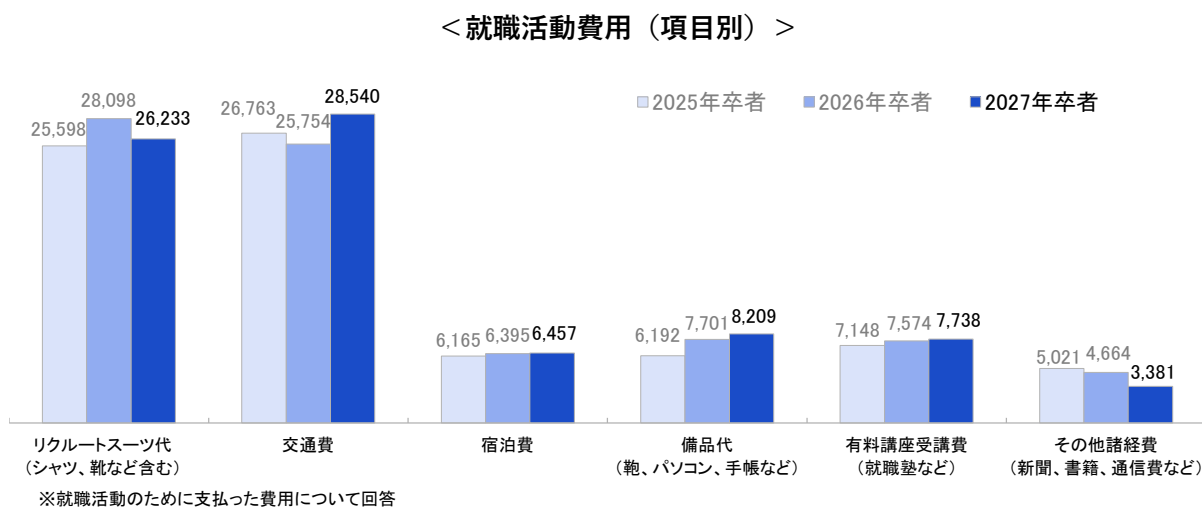
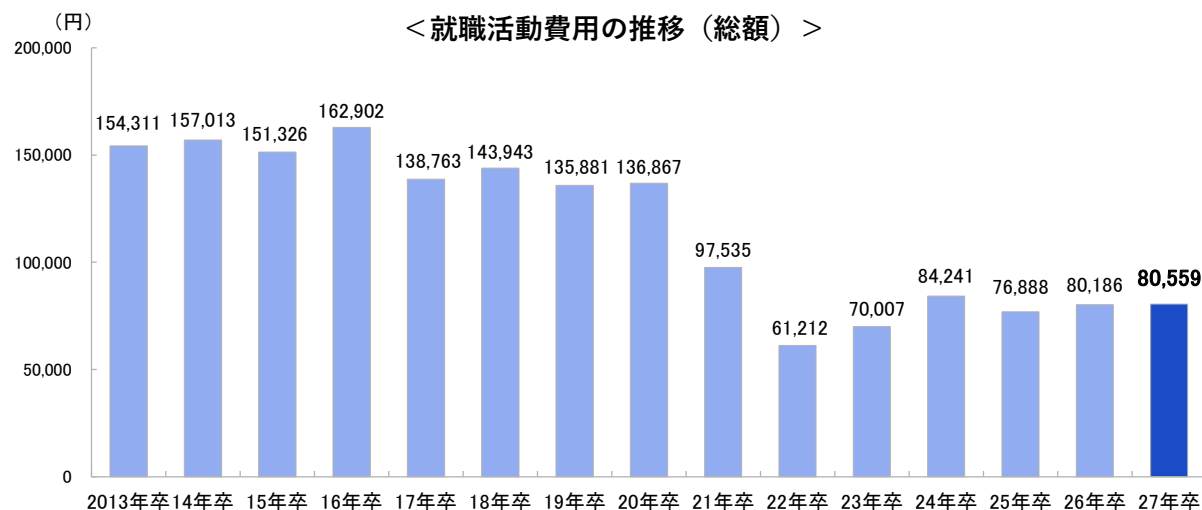


■ 地元就活で苦労した点、必要だと思う支援など

- 地元就活の場合、全国企業を見ている人と比べて選べる企業が格段に減ってしまう。 < 理系男子 >
- 本社があっても、本当に地元で働けるかがわからない。 < 文系女子 >
- 進学先と地元を行き来する時間、労力、金銭が負担となった。 < 文系男子 >
- 地元企業の情報は地元以外に住んでいると全然わからないため、地元企業を紹介するオンラインのイベントがたくさんあると良いと思った。 < 文系女子 >
- 地元の企業は地元の大学との結びつきが強い場合があり、情報を入手しにくい点に苦労した。 < 理系女子 >

7. 就職活動の費用

就職活動でかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均額を足し上げると 80,559 円となり、前年調査 (80,186 円) と同水準。就活費用はコロナ禍を機に大幅に減少したが、2022 年卒者を底に増加に転じ、近年は 8 万円前後が続いている。



< 就職活動費用 (大学地域別) >

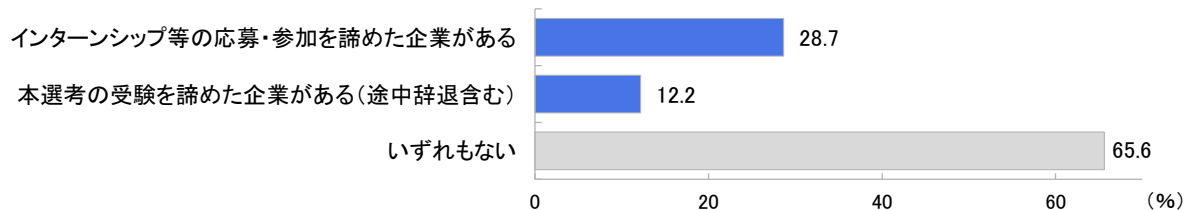
	(円)						
	北海道	東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
合 計	94,497	95,053	64,446	97,924	88,257	127,249	85,075
リクルートスーツ代	17,879	21,860	27,412	27,238	25,365	29,367	20,885
交通費	47,485	32,982	19,526	32,728	32,791	56,772	41,415
宿泊費	14,394	13,368	1,461	11,348	9,764	13,610	8,887
備品代	3,285	10,000	7,695	9,036	7,877	13,147	8,103
有料講座受講費	0	13,860	5,351	13,338	9,369	11,294	3,226
その他諸経費	11,455	2,982	3,000	4,236	3,091	3,059	2,559

項目別に見ると (表は 9 ページに掲載)、最も高いのは「交通費」(28,540 円) で、次いで高いのは「リクルートスーツ代」(26,233 円)。この 2 項目で全費用の大半を占める。

地域別では、合計額が最も高いのは「中国・四国」で 127,249 円。唯一 10 万円を超えたが、特に「交通費」が 5 万円を超えているのが目立つ (56,772 円)。「北海道」「九州・沖縄」も交通費は高め。一方「関東」は 2 万円未満 (19,526 円) で、地域による差が顕著。

なお、企業からの交通費の支給や補助がないことで、「インターンシップ等のプログラムの応募・参加を諦めた企業がある」という学生は 28.7%、「本選考の受験を諦めた企業がある」は 12.2% で、一部の学生にとっては交通費が大きな負担になっていることがうかがえる。

< 交通費の支給 (補助) がいないことで受けるのをやめた企業の有無 >



	北海道	東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
インターンシップ等の応募・参加を諦めた企業がある	48.5	40.4	18.2	36.3	36.5	48.5	32.3
本選考の受験を諦めた企業がある (途中辞退含む)	18.2	15.8	7.5	16.7	13.8	20.6	22.6
いずれもない	45.5	54.4	77.2	55.4	58.9	41.2	58.1

■就職活動の費用について

○交通費と宿泊費が想像以上に膨らんでしまったため、もっと交通費などを支給する企業を中心に受ければよかった。
< 中国四国・理系男子 / 総額 170,000 円 >

○都内在住とはいえ交通費が高み、またバイトがしづらいことから経済的には苦しかった。

< 関東・文系男子 / 総額 55,000 円 >

○宿泊費や新幹線代が出る企業のイベントにしか基本的には行っていない。地方に住んでいると接触しやすい企業が限られるのが不利だと思う。

< 関西・文系女子 / 総額 16,800 円 >

○スーツはレンタルサービスを使ってコストを抑えることができた。

< 関東・理系女子 / 総額 3,000 円 >

○交通費支給の場合でも、実際に支給されるまで時間差があり、手元のお金がない状態が厳しかったです。

< 東北・文系女子 / 総額 450,000 円 >

○スーツやカバンはお金がかかる。交通費は地元企業のみであればそこまでかからなかった。

< 関東・文系男子 / 総額 45,000 円 >

○交通費に関してはどの会社も出してくれたからよかった。

< 九州・沖縄・理系男子 / 総額 50,000 円 >

○「就活のためだけ」に使ったお金は、交通費と適性検査対策本とメモ帳くらいなのでそこまで負担ではなかった。スーツなどは基本的に既に持っていたものを使っていた。

< 北海道・文系女子 / 総額 7,110 円 >

○有料講座は無駄だと思ったので、キャリアセンターの図書室や無料のセミナー、ハローワークなどを活用した。

< 中部・文系女子 / 総額 40,000 円 >

○AI に課金して良かった。

< 関東・文系男子 / 総額 68,000 円 >

○証明写真をスタジオで撮ってもらったら、思ったよりもお金がかかった。

< 関東・文系女子 / 総額 63,000 円 >

○オフィスカジュアルだとまた服を買わないといけなかったので、スーツ統一が安くていい。

< 関西・理系女子 / 総額 48,000 円 >

○親に負担してもらっている部分もあるのであまり気にしていなかった。

< 中部・文系男子 / 総額 78,000 円 >